人を大切にし　豊かな心を育む　ふるさと車尾

住 民 主 体 の まちづくり

No.54　２０１８．７　　編集発行：車尾まちづくり推進会議　事務局

■　住んで楽しい街づくり②

本市の伊木隆司市長が提唱する「住んで楽しい街づくり」の思いを前号に続いて紹介します。

『一昨年から今年にかけて、世界情勢が大きく動いています。イギリスの EU 離脱や、トランプ大統領の誕生など、共通するのは「グローバル疲れ」による、脱グローバル化の動きです。

日本においては政府が主導する「働き方改革」は一つのエポックになる可能性のある動きです。資本の論理によって徹底的に合理化を図り、利益を最大化していく考え方に“待った”が掛けられているような状況が見てとれるのが昨今の世相です。

そんな中で、「地方都市の街づくり」はどうあるべきでしょうか。これまでのように、「仕事して、家に寝に帰る」が基本の生活スタイルではなく、各々が自分の趣味や人との交流を思い思いに楽しむスタイルが主流の生活にできないか、というのが私の思いです。

私が２６歳のときに旅行したスペインでは、「楽しまなければ罪」という考えが浸透し、人々がゆったりした時間を楽しんでいる姿が印象的でした。

15・6 世紀のころは、スペインは世界を支配しようという巨大な帝国でしたが、やがてイギリスに敗れ、現在のスペインは一応は先進国ですが、国家財政に不安を抱え、失業も多い国になっています。

しかし、そのことをあまり彼らは気にしていない様子で、そんなことよりも目の前の生活をいかに楽しむかということにエネルギーを注ぐ姿は、カルチャーショックでした。これは、２８歳のときに旅行したイタリアもそうでした。イタリアもかつてローマ帝国として広大な地域を支配していましたが、今のイタリアはそういうことには興味がないかのように、日々の生活を楽しもうという考えが浸透しています。』　　（つづく）

■　わがまち支え愛連絡会

この会は、自治会長・民生委員などのが主体となって住宅地図を見ながら「支え愛マップ」づくりを通して、地域において支援を必要とする者に対する平常時の見守り体制づくりや災害時の避難支援の仕組みづくり等に取り組み、地域住民が主体となった地域課題の解決のための支え愛活動への展開により、誰もが身近な地域で安全・安心に暮らすための支え愛体制の充実を図ることをめざしています。

6 月 15 日（金）の会では、自治会間の情報交換をして互いに効果的な事例を取り入れながら米子市包括支援センターの職員さんから、今後の車尾の取り組みについてしっかりとした方向性を示唆していただきました。